

スタンフォード大学研修に参加して

JA 府中総合病院 河本 佳則

スタンフォード大学研修という貴重な体験を受ける機会をいただいた。私がこの研修に求めたものは、実践に生かせる技術や情報の習得、作成者育成システムの標準化方法、MRI や PET/CT 等の最新情報と技術の習得であった。

私の専門分野は CT、とくに cardiac CT であるが、これらに関する情報はあまり多くはなかった。この研修では MRI 及び、PET/CT に重点をおかれた講義内容で、最先端の研究は形態画像から機能画像へ移っていた。分子イメージングの分野で最先端の講義や研究施設を見学し、この分野の大きな将来性と重要性を感じることができた。Moseley 先生が最後の講義で『分子イメージングの波に乗り遅れるな！』と話していたが、まさにそのとおりであると感じた。

以前より興味があった 3D ラボの見学では、担当されている技師からシステムや運用方法などの説明を受けた。PACS で送られてくる画像より専門の技師が MPR や 3D を作成するが、その手順は詳細なマニュアルをもとに作成されていた。定期的にカンファレンスを行い、症例ごとにディスカッションを行うことで個々のレベルを一定に保ちつつ、症例ごと、作成者ごとに + を加えるという大変効率のよいもので、すぐに自施設でも取り入れようと考えた。

ルーカスセンターでの研修の後、宿舎にて今回参加された方たちと交流やディスカッションが毎日行われた。その中で『いかに技師の地位を向上させるか』というテーマがあった。数年前よりさまざまな場で議論されているが、その方法の一つとして他職種の方々に認めてもらえるような実績を積み上げることが重要ではないかと考える。それにはすべての診療放射線技師がレベルや実績等を向上させるほかないと思うが、現実はそうでもない。現在、研究を熱心に行っている方々は『患者様の利益のために』という高い『志』によるところが大きいと考えるが、論文投稿や研究発表、PhD 取得等に対する『皆が正当に評価されたと思えるようなシステム』の構築が必要なのではないかと考えさせられた。

この研修を通じて全国各地から集まった専門分野の異なる方たちと知り合えた。『同じ釜の飯』を食い、それぞれが感じたことや考えを語り合う中で、物事に対する捉え方や考え方など大変多くの事を学ぶことができた。今後、この 6 期生の仲間とお互い刺激し合い、高め合いながら、このすばらしい研修を後輩たちに広めていきたいと考える。

最後になりましたが、このようなすばらしい研修の機会を与えてくださったスタンフォード大学、日本放射線技術学会ならびに、GE ヘルスケアジャパンの方々、引率の京谷隊長、そしてこの研修に快く送り出していただいた JA 府中総合病院放射線科の皆様に深く感謝いたします。



Lucas Center にて Moseley 先生(右)と筆者